

SUL 1部-第10節 優勝争い、残留争い今季を占う大一番が行われた。



四国学院大学 0(0-0)0 愛媛大学



前節、首位に勝点で並んだ四国学院大学（勝点 17）と勝点で 5 位松山大学と並んだ 6 位 愛媛大学（勝点 7）との一戦は、首位との得失点差 13 を考えるとまずは、勝利が条件となる四学大は、前半から攻勢に出る。愛媛大学は残り 2 試合であることもあり、まずは勝点を獲得するため、我慢強く、体を張ったプレーで対抗し、ゴールに迫るもののなかなかゴールを割れず、前半をスコアレスで折り返す。

後半、さらに勝利を目指す四学大は、ゴールを目指すも愛媛大の守備を崩すことはできず、愛媛大は、なかなか攻勢に出られないが、しっかり守備から入る姿勢を崩さず、試合はスコアレスで試合を終えた。

この結果、四学大の優勝は、高松大 vs 高知大の結果に委ねられ、愛媛大の残留も松山大 vs 聖カ大の結果に委ねられた。



松山大学 2(1-3)4 聖カタリナ大学



残留のためには引き分け以上が求められることとなった松山大学（勝点 7）と自チーム最多勝点更新中の聖カタリナ大学（勝点 11）の一戦は、開始 10 分 松山大²³奥田のシュートを GK 竹内のはじいた球を³⁰西田が流し込んで貴重な先制点！しかし、その 2 分後聖カ大は、右 CK からのこぼれ球を¹⁴山下が押し込んで同点とする！これが、松山大に与える影響が大きく、36 分²⁸佐伯から⁹三好、44 分¹⁰豊田から²⁸佐伯が決めて 1-3 で前半を折り返すと 52 分にも¹⁰豊田から⁹三好が決めて 3 点差となるも諦めない松山大は 84 分 ²⁵須賀の FK から³大木が頭で決めて追上げるも反撃はここまで。聖カ大は、過去最高勝点の 14、松山大は、後期勝点を伸ばせず、2 部との入替戦に残留への望みを託すこととなった。



—折り鶴賞<警告・退場がなく、尚且つ、フェアプレーであったと認められたチームに与えられる>



高松大学 2(0-0)1 高知大学



勝てば優勝の高松大学（勝点 17）と残り 2 試合で勝点差 3 および得失点差 7 をひっくり返したい高知大学（勝点 14）の一戦は、高知大が今年 1 番の推進力を見せ攻勢に出る。高松大は前半 DF 陣の踏ん張り と GK 栗原の PK ストップと積極的な飛び出しで高知大の得点機会を阻止！スコアレスで前半を終える。

後半も高知大が優位に進めるも高松大は苦しい展開が続くなか 60 分 ⑩川西の左 CK から⑬楠が頭で合わせて先制すると、69 分再び⑩川西の左 CK から⑦辻岡が合わせて追加点！追いつきたい高知大はさらに圧力を強めると 84 分⑧池内から⑨原田が決めるも、あと 1 点が遠かった。

勝った高松大学は、2 年連続全日本インカレの切符を掴んだ。



延期試合 1 試合を残して順位確定

延期試合（10/22 愛媛大学 vs 高知大学）を残すものの全チームの順位が以下のように確定した。

※ カッコ内は 10/15 時点の勝点

優勝 高松大学 (20) → 全日本インカレ出場
2 位 四国学院大学 (18)
3 位 高知大学 (14)
4 位 聖カタリナ大学 (14)
5 位 愛媛大学 (8)
6 位 松山大学 (7) → 1 部 2 部入替戦へ

上位 3 チームの優勝争いは、高松大学が 2 年連続 3 度目の優勝で幕を閉じ、全日本インカレ出場権を獲得した。残留争いは、リーグ終盤に現実的な戦い方で手堅く勝点 1 を積み上げた愛媛大学が自動残留を手にし、松山大学は 2 部との入替戦に残留への希望を託すこととなった。入替戦は、2 部優勝チームが決まり次第、日程調整のうえ、原則、1 部 6 位大学のホームで開催される。